

## 絶対知識(マルコ 3:30-35)

いま私たちはフェイクとファクトが入り混ざる情報が溢れている情報洪水の時代を生きています。だから何がフェイクなのか、何がファクトなのかを見極めることがなにより大切だと言われてます。もちろんそうでしょう。そして、そのファクトの中に自分が人生を生きていくために必要な知識を選別することが求められます。それも言うまでもありません。しかし、クリスチャンの私たちはそのファクトの中で生きていくために必要な知識の中に、それが本当に自分を幸せにするものなのか、また人を根本から変えられる知識とはそこにあるのか、人を真の救いに導く、そのような知識は存在するのかということ問いかけないといけません。そのような知識を絶対知識と言います。生きるために必要な知識はたくさん必要です。しかし、だからといってそれが絶対知識とは限りません。そのことを知らないとは地獄、それを知っていれば天国。それを正しく分かっていたら救われ、それを知らないで滅びる。そういう知識はファクトの中に本当にあるのでしょうか。その絶対知識は一体何でしょうか。それに対して私たちは聖書を通してその答えを受けないといけません。聖書のコロサイ 2:3 を見ますと、「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです」。それから詩編 111:10 には、「主を恐れることは、知恵の初め」と言われています。箴言 1:7 にも「主を恐れることは知識の初めである」と言われています。つまりこのような内容をまとめますと、絶対知識は何なのかと言いますと、イエスはキリストという理解なのです。イエスはキリストという知識がある者は救われて、その知識がなければどんなに知識が豊富な人間でも、その人は希望などはありません。イエスはキリストという知識は一体どんなものなのでしょう。それは人間というのはキリストがなければまったく希望のない絶望的な罪人だという知識なのです。そして、そのような罪人を神様は不思議な愛、無条件の愛をもって御子イエス・キリストを犠牲にしてまで愛し、その罪人を救われるという知識なのです。だから、誰でもこのイエス・キリストを信じる者は救われるよという知識が、イエスはキリストという知識であり、それこそが絶対知識なのです。このイエスはキリストという知識がなければ、その人はどんなに有能な人間でも結局は失敗して滅びるようになります。このイエスはキリストという知識が皆さんにとって絶対知識として刻印されることをまず祈りたいと思います。この絶対知識であるがゆえに、私たちはこのようなメッセージを心に留めないといけません。

その第一が、イエスはキリスト、これを知らないとは人間的に良い条件を持っていてもそれが害になります。

だから絶対知識です。イエスはキリスト、これを知らないとは人間的に有利な条件はたくさんあってもそれがマイナスになってしまいます。良い条件だから、有利な条件だから、無条件ハッピーと喜ぶわけにはいきません。このような絶対知識によって分かれてしまうからです。

ユダヤ人には他の国や民族にはない律法が与えられました。それはとても幸いなことなのです。そして、神様に選ばれた選民と言われることになりました。それは祝福なのです。しかし、残念ながらイスラエルの人々は、イエスはキリストという知識がなかったため、それに欠けていたため、その祝福の律法をもって自分たちが他の民族や他の国の人々よりもっと優れた者、偉い者だと威張る材料にしてしまいました。それで滅びてしまいます。良いものなのに、良い条件なのに、自分が選ばれた選民だという意識がイエスはキリストだという絶対知識が欠けていたがゆえに、劣っている者、ダメな人間を見て、その人をさばいて、その人を殺してダメにしてしまう道具にしてしまいました。その結果、滅びてしまいます。恐ろしくありませんか。私たちは有利な条件があれば、祝福があれば何でもかんでも良いと単純に思いますけれども、そんな簡単な話ではありません。絶対知識がなければ、それがむしろ害になるということをぜひ覚えていてください。その国があらゆる理由で発展を遂げて大国になる場合があります。歴史上大国が登場したことはたくさんあります。しかし、その大国になったということは素晴らしいことです。悪いことではありません。しかし、イエスがキリストという絶対知識がないので、その大国になると必ず自分の国は他の国と違う特別な国だという意識を持つようになります。だから、それをより極めるために神格化に走るようになります。王様を神に立て上げるか、あるいは何か象徴的な中心点になるような偶像、宗教など作って、皆がそこに集中するように仕掛けるようになります。それで神格化に走っていくのです。歴史を少しでも勉強してみれば、すべて

が同じパターンであるということが分かります。だから、発展を遂げて大国になり、先進国になることは悪いことではありませんが、絶対知識がなければそれがむしろ害になって、それで大国の中で滅びてない国は一つもありません。今も大国、大国と言われている国がありますが、これから50年、100年後にはどうなっているのでしょうか。これが絶対知識の力なのです。そうならざるを得ません。個人的にもニコデモという人間のように、成功した人、また学びがあり、知識が豊富なそういう人がいます。あるいは、イエス様を訪ねてきた金持ちの青年のように、まだ青年なのに成功を収めて金持ちになった、そういう人も少なくありません。それは悪いことではありません。知識が豊富で学歴が優れていることは有利な条件に間違いありません。お金持ちというのは、貧乏よりは有利に間違いありません。しかし、絶対知識、イエスがキリストという知識がなければ、その有利なもののゆえにまことの真理が見えなくなります。そして、そういうことを持っているので、彼らは心の中から富と健康と平坦が幸せだと勝手に思い込んで、結局は真理に至ることができないまま滅びてしまいます。絶対知識はとてとても大切なのです。このような内容を総合して、それを経験していたものがパウロという伝道者です。それでパウロはこのように告白しています。ペリピ3:7-8を見ますと、このようにパウロが告白しています。「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています」と。今まで自分が有利だ、祝福だ、良かった、また自慢できる誇りに思っていたもの、それが損になっていたという告白をしているわけなのです。なぜなのでしょう。パウロはもちろんイスラエルの人です。神様に選ばれた選民、またその中でも区別されていたパリサイ人であり、またベニヤミン族なので王族なのです。律法に対しては誰よりも熱心な人であり、学問的には博士の学位を何個も持っているような人であり、そして若くして成功を収めていた有望な人間だったのです。しかし、一つイエスがキリストだということが分かっていなかったで、絶対知識が欠けていたので、そのようなすべてがパウロにとって損になっていたということです。クリスチャンでありながらも、このことを心から素直に認めようとしないです。ダメな人間はダメなりにこういうことが、こういう条件が自分には揃ってないからダメだと。あるいはこういう部分において優れたクリスチャンの場合は、それを自慢げにして絶対知識の方にしっかり立てなくなります。どっちも同じなのです。今日の聖書を見ますと、イエス様の肉の家族がイエス様を訪ねてきて、「イエス様を呼んでこい」とお願いしました。弟子たちがイエス様に「あなたの家族が来てますよ」と言った時に、イエス様が「誰が私の家族なのか」と。つまり、イエス様の肉の家族、母親や兄弟になっているということは一番身近にいることができたので、なんと有利なのでしょう。にも関わらず、どんなに一番身近なところにいる人間でも、イエスがキリストであることが分かっていないと、それが逆にマイナスになってしまいます。牧師の子どもたちが信仰生活がめちゃくちゃになるという話はよくあります。一番身近にいるから、それが有利なはずなのに不利に働いてしまったというケースが少なくありません。絶対知識。他の知識は、ある意味極端に申し上げますと、分かっても分からなくても構わないかもしれません。しかし、イエスがキリスト、この知識だけは知らなければ、良いものも悪いものになってしまい、天国なのか地獄なのかに分かれることとなります。本当に皆さんがイエス様はキリストですと信じて、この知識がこの告白がそのような絶対的なものだという認識、そのような理解を持っていらっしゃるのでしょうか。もしそうであればだいぶ変わってくると思います。有利が有利ではありません。人間的に条件的に良いから有利だからと、それで安心してはいけません。また、結論で申し上げますけれども、だからと言って、そういうことを比較したり比べたりすることで、それに影響を受けることはおろかなこととなります。絶対知識が分かっていないと、そういう方向に走るしかありません。

そして残念なのは二番目です。イエスはキリスト、この知識を正しく知らないと言者なのにこの世の奴隷になってしまいます。

答えられて証人としてこの世を生かすべき存在なのに、この世の奴隷になってアップアップしてこの世の流れからなかなか抜け出すことができないまま、人生が終わってしまいます。なんと残念なのでしょう。イスラエルの歴史がそういうことを物語っています。イスラエルの歴史はイエスがキリストという知識がなかったがゆえに、奴隷になり捕虜になる歴史の連続でした。植民地になってしまったり。これが象徴的なメッセージです。どんなに良い条件に恵まれていたとしても絶対知識、イエスがキリストだこの知識は分かっていないとどれになるしかありません。逆に知識の面において劣って

いたとしても、イエスがキリストで絶対知識を握っている者は、その人は祝福されます。なので信者でもイエスがキリストという絶対知識が分かっていないと、創世記3、6、11章がいつまで経ってもテーマになってしまいます。自分がどうなるのか。目に見えるものが、肉がこの世の成功などがテーマになって、そのテーマからなかなか抜けられないのです。教会にいくら通っていても、テーマがいつもそういうことなのです。なぜ笑ってなぜ泣いたりするのでしょうか。なぜ嬉しくなってなぜハッピーで、なぜ涙を流しているのでしょうか。その理由は、世の中の人と何が違うのでしょうか。それが教会に通っている信者なのに、イエスがキリストだという知識が正しくその人に刻まれていないから、そうならざるを得ません。そうすると結局は、イエス様を信じるイエス様の御名を呼んでいるにもかかわらず、そのイエス様を自分の都合に合わせるようになります。まるでイエス様が「人々がわたしのことをなんとやっているのか」と聞いた時に、弟子たちが答えたその内容のようになります。「バプテスマのヨハネです。エリアのようです。エレミアのようです。預言者のひとりですと言っていますよ」と。イエス様が本当にそのような方なのでしょうか。教会に通ってイエス様を信じると言っているながらも、イエスがキリスト、この絶対知識に欠けているとイエス様が社会運動の道具になります。神秘運動の道具になり、博愛主義の道具になり、教理運動の道具になります。全部が自分の思想なのです。結局は。結果、この世と何も変わらない価値観をもってずっと人生を歩くようになります。何が幸せなのか、世の中の人と全く変わりはありません。なにが悲しみなのか、何が不幸なのか、何を本当の希望なのか、世の中の人と何も変わっていません。何が人生を生きるための本当の力なのか、何が誇りなのか、何が自慢なのか、話の中身を聞いてみると未信者とどこも変わっていません。何も変わっていません。そういった価値観をもって、その価値のために一生懸命祈って、一生懸命教会生活をしようとしています。そういうことを宗教生活と言います。教会に通っていても、親がクリスチャンであっても、自分が個人的にイエスがキリストという知識にしっかり正しく立っていないとそうならざるを得ません。教会に来ないよりは来たほうが聞く機会が許されているので有利かもしれませんけども、逆にこの知識を拒否ししつつ教会に行くと教会に行ってるよという安心感が害になる場合もあります。イエスはキリスト。これは絶対知識です。

なので三番目です。イエスはキリストということを知り、信じる人は人間的な条件とは全く関係なく神様の家族になります。

イエス様は、弟子たちが「家族が来ましたよ」と言った時に、このようにおっしゃいました。「神のみこころを行うものが家族なんだ」と。神のみこころを行うことは何でしょうか。イエスはキリストと知り、心から認めて信じることです。そういう人が神様の家族なんだ。神様の家族、神の子どもになるということより大きな祝福はありません。だから、イエス様をキリストと知る、信じる知識は、神の子どもになるのか、悪魔の子どものままなのかに分かれてしまう絶対知識だということを心に覚えましょう。イエスがキリストと知り信じる人は、人間的な条件と関係なくと言われていました。つまり、人種がどうなのか、肌色がどうなのか、その人が才能ある者なのかない者なのか。そして学歴が優れているのか、ボロボロなのか、財産の有無、社会的な地位が高いのか低いのか、性格が良いか悪いか、経歴が輝かしいものなのかボロボロな経歴なのか。あるいはその人のバックグラウンドがものすごいものなのか、何もバックグラウンドなどないのか等々の人間的な条件の有利、不利等とは一切関係なく、イエスはキリストと知り信じる者は神の家族になります。これから申し上げます聖書の箇所、神のみことばを本当に耳を澄まして聞いて心に留めましょう。ガラテヤ3：27-29。「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです」。これから申し上げますけれども、ユダヤ人の家族の一番のポイントは何かと言いますと、相続ということ。親にあるすべてのものを自分のものとして受け継いで相続する祝福の身分というのが家族という意味なのです。エペソ1：18「また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか」家族なので。デタラメな人間も真面目な人間もそれは神様の家族になり、神の祝福を相続することとまったく関係ありません。絶対知識、イエスはキリスト、これ一つにかかっています。エペソ2：18-19にもこのように言われています。「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくこと

ができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです」。異邦人もユダヤ人もギリシャ人も黒人も病気を抱えている人間も健康な人間も、社会ではこのように評価され、あのように評価され、様々な評価があるでしょうけれども、そういうこと全く関係なく、イエスはキリストと知り信じる者は神の家族なのです。ローマ8：15「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてください御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます」。それでローマ8：29-30にはこう書いてあります。「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです」。神の家族、神の子どもになるとは、イエス様が長子と言われるそのファミリーの中に入れられるようになった。神様のファミリーになったということです。これが祝福です。でも未だに条件にこだわって祝福と幸せを天秤にかける人間は信者でもこの神のファミリーになったということが祝福として多分感じ取れないでしょう。だからずっと未信者と同じ価値観の中で同じ道を歩むようになるしかありません。答えはなかなか見ることができないでしょう。人を生かす、やみに光を照らすなどはなかなか期待できません。しかし、どのような条件であろうが、イエスはキリストというこの絶対知識によって信じた者は、神のファミリーになります。条件と関係ありません。なので神のすべての祝福を相続して私のものになっているのです。誰がでしょうか。イエスがキリスト、この絶対知識に立ってイエス様を信じて受け入れた者は、人間的な条件と全く関係なくこのような素晴らしい家族になっています。天にある霊的すべての祝福をいただいたと断言しても問題のない、そういう存在になります。だからパウロは、このように神のファミリーになったということで、神のすべてを相続したものだという感激感謝をもって苦難の中でこのように言っています。Ⅱコリント4：7「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちがから出たものでないことが明らかにされるためです」。この宝をキリストを私の内側に持つようになった。キリストは神様ご自身であり、それで三位一体の神様が住まわれることになり、神の国が自分のものになり、神のすべてが自分のものになりました。相続です。旧約のときは、イスラエルの12部族にカナンを分配しました。それが今ひとりひとり信じる者、神の民になっている新しいイスラエルのひとりひとりの内側に、この神の祝福が相続されることの預言のようなものなのです。カナンの土地が本物の祝福ではありません。キリストなのです。キリストにある神の国なのです。この陰しい罪にまみれているこの世を歩いているけれども、それに負けないでその世を変えることができる神の国に預かり、神の国を歩くようになった神のファミリーです。それでパウロはまた、Ⅰコリント3：16において、絶対知識であるイエス・キリストを信じて受け入れた者に対して「あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか」と祝福します。いわば絶対知識、イエスはキリストということを知り信じた者は、条件と関係なく神の国を相続しているので、三位一体の神様をご臨在し働くようになり、御座の祝福と栄光が臨まれまして、時間空間を超越する力が働き、237を照らすその光が動いて働くようになるものなのです。その祝福の主人公であります。それによって神のかたちが生かされてたましいに息が吹き込まれて強くなり、エデンの園の祝福を回復して、まことの人間を回復し伝道者としてよみがえっていくようになります。そういう人はその人の人生、また教会、その人の業そのものに神様の御座の祝福が現れて、空前絶後の答えによって証拠ある証人となります。なので、その証拠をもって牧会者を生かして、重職者を生かして、次世代を生かして、教会を生かして、現場を生かして、5000未伝道種族を生かすことができるし、過去現在未来を生かすことができる証人としての人生を歩くようになります。このような祝福が神の国の祝福、神の祝福を相続したということです。神のファミリーは誰にでもこのような祝福が皆に公平に与えられ許されています。課題はそれを信じて味わうか味わわないかだけなのです。なぜ味わわないのでしょうか。なぜ信じないのでしょうか。神のファミリーなのに。ファミリーの特徴は相続なのです。3.9.3を相続しました。神のファミリーだから。でも、なぜその信仰がなかなかないのでしょうか。イエスはキリストという知識が絶対だという理解がまだまだ薄いからではないのでしょうか。今日限り、様々な情報や知識がありますけれども、必要な知識もたくさんあります。しかし、必要な知識が絶対知識ではありません。イエスはキリスト、この知識こそが絶対知識であり、それによって天国と地獄に分かれるんだと言うことをはっきりと心に覚えて、他の何かに惑わされないで、スマホのYouTube等々あまり見すぎることには悪くありませんけれども、絶対知識、講壇のメッセージ、聖書を土台にして、その上で見るようにしないと翻弄されます。絶対知識だから。皆さんが学校で勉強していることはとても大切なのです。

しかし、たとえその勉強がだめになることがあっても人生が減びることはありません。しかし、イエスはキリストという聖書の知識に欠けていますと、良いものもダメになり、ダメなものもダメになり、減びることのほかにありません。なんと感謝でしょうか。無理やり親に連れられて教会に来た。嫌だと思っているでしょうけれども、そうでなければこの絶対知識に預かることができなかつたのではないのでしょうか。感謝しないといけません。

なので結論です。これからはこの絶対知識をしっかりと覚えて、人間的な条件などで比較したりして優越感に浸ったり、劣等感に溺れたりすることがないように。人と何かの条件で比較することなどないようにしましょう。あの人は頭が良いのに、あの人は格好良いのに、私はブスなんだ。あの人のお母さんは優しいのに、うちの親はなんでこうなの...とか比較することは愚かなことなのです。それはサタンの国になってしまいます。そう思うと、思うとおりになってしまいます。神の国に入らないといけません。私たちはイエス・キリストによって神の国のファミリーになりました。2分の礼拝でも申し上げますけれども、礼拝を通して皆さんが3.9.3に意識を集中すること、それが人生を左右します。それが6日間のすべての生活において全部流れるようになることが祈りなのです。神の国は日曜日の1時間だけではありません。でも、この時がいちばん神の国に触れることができるチャンスなのです。意識だけでもそれが積み重なることで、その思い通りになります。皆さんが礼拝に来るたびに、「どうか神の国が私に臨まれるように。私にある世の様々なこだわりやサタンに騙されている不信仰などは砕かれて、神の国に豊かに満たされるように」と思うだけでも皆さんの人生は変わります。それが普段の生活の様々な場面で出てくるようになることが祈りです。誰かに無視されました。それは世の国なのです。それで「なんでだろう」と思うのがサタンの国なのです。そこに神の国を。神の計画が必ずあり、神様をご存知の上で許されたものだから、良いか悪いかは私の判断であって、神様が知らないことは何一つないし、偶然は絶対存在しません。偶然だと言うことは神様を否定することになります。だから、人間的な条件などを比べたり、それに刺激を受けたり、そういうことをしないで、むしろ絶対知識、イエスはキリストを告白することにフォーカスを合わせるようにしましょう。それで皆さんは変わります。心の内側からも人生が変わります。そこから皆さんの信仰の内容がOnly キリスト、Only 神の国、Only 聖霊になるように。しかし、なかなかそうならないように邪魔するものがあります。それを素直に認めて、この聖書の箇所を覚えてぜひ祈ってください。Ⅱコリント 10：4-5です。「私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ」る、その力が皆さんの心と思いに働くように。その聖霊の力が自分の思いと自分の内側に働くように祈ってください。それが働いて Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊の信仰に歩こうとしているのに、それを邪魔するものがあるわけです。それが砕かれるように、ぜひ皆さん祈ってください。皆さんは神のファミリーなのでそのようになる資格があります。それを味わいましょう。神の力が皆さんの思いと心と内側で働くように祈りましょう。神の国が臨まれるように祈りましょう。それによって皆さんの古き考え、肉の思い、自分の限界が砕かれることになります。そこから Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊の方に走るようになるでしょう。そうすると、皆さんがいらっしゃるところ、皆さん行く所々において、地獄とのろいの勢力が砕かれて悪魔と悪霊が追い出されて不信仰が砕かれて神の国が臨まれる神のわざが必ず現れることになります。皆さんの能力と条件とは全く関係なく。なぜでしょうか。イエスはキリストという絶対知識の主人公になり、神のファミリーとなり、神の国を相続しているからなのです。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日、礼拝を捧げているひとりひとりが、レムナントを始め、年配の方々に至るまで、イエスはキリストを告白しています。これが絶対知識だという正しい理解のゆえに、様々な条件から解放されてこの絶対知識を握って、自分が神の国を相続している神の子ども、神のファミリーであるという確信をもって、神の国が内側に臨まれることを祈るクリスチャンとして導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン